

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）  
分担研究報告書

AYA 支援チームのモデル作成に関する研究

研究分担者 石田 裕二 静岡県立静岡がんセンター小児科部長  
研究協力者 津村 明美 静岡県立静岡がんセンター がん看護専門看護師

研究要旨

AYA 支援チームのモデル作成に関する研究である。今年度の AYA 支援活動として 3 点について報告する。①施設内での AYA 支援チームの活動に関する事②施設外の医療施設との連携③行政と地域の医療ネットワーク構築について報告する。

AUA 世代の支援については、既存の臓器別診療によってもたらされる様々な医療資源が有効に活用される必要があるが、これらに加えて、AYA 世代独特の共通するケアの提供については、支援チームのような臓器横断的な活動が、この世代の需要を早期に拾い上げ、支援に結びつけ、妊孕性に関することなどの自施設内で提供できない支援内容については、広域の活用できる医療財源と結びつける方法を確立し、そして地方行政などと一体になった、地域特性を生かした体制作りが重要と考えられる。院内支援チームの熟成、地域ネットワークの活発化、行政との意見交換などが有効であった。

A. 研究目的

- ① 院内の診療実態の把握
- ② 病院主催の AYA 世代のがん患者さんへのピアサポート
- ③ AYA 世代支援のリンクナース制度の確立
- ④ 地域連携としての AYA 支援

B. 研究方法

- ① 電子カルテによる、網羅的な実態把握を実施した。また、リンクナース等からの報告、支援チームによる院内のラウンド活動による個別症例の把握を行った。
- ② ピアサポート：当事者の横のつながりの支援することを目標に実施  
当事者の横のつながりの支援を『座談会』として実施、目的別に対象を決めて、情報提供を行った。規模と内容を変えて、支援の幅を広げること为目标にした。
  - ・『若者達の大座談会』：約 100 名規模の AYA 世代患者および家族の共に共有
  - ・『若者達の座談会』『親のつどい』：小規模の AYA 世代患者と親の集まりの会 10 人規模の集まり

- ・『子育て世代の座談会』『がんの親を持つ子ども達の集い』  
子育てをしながらのがん闘病について語り合える場を目標に開催  
同時に、そのお子さんたちの支援の為に、子ども達の集いも開催  
上記のあとに、アンケートを行い、会合の意義を検討した。
- ③ 臓器別病棟に、AYA 支援に関するリンクナースを指名し、リンクナースの会合、病棟内ラウンドなどを実施した。
- ④ 地域連携 県内の大学病院（浜松医科大学）、小児病院（静岡こども病院）、地域の総合病院（静岡県立総合病院、聖隷病院）、静岡県の医療行政担当者との会合をもち、地域連携で行うべき連携についての具体的な方策について議論し、行政支援についての意見交換も実施した。  
静岡版 AYA 世代支援ネットワーク構築のためのワークショップ開催した。

## C. 研究結果

- ① 実態把握 地域がん登録から、2016年～2018年の15-29歳の新規患者数53名（年平均）、同期間15-39歳226名（年平均）総数では30歳以上の症例数の多さが確認された。統計的な処理は行っていないが、個別症例の問題の拾い上げに、病棟ラウンドは有効であった。
- ② 座談会は、それぞれの会合の形式によって、テーマが異なり、また参加者の発言機会に大きな差が出て、聞き手として参加、相互交流としての参加など、規模に応じた内容の変化が確認された。
- ③ 支援チーム 支援チームの活動としてのリンクナース制度を開始したことにより、AYA世代支援の問題のスクリーニングを開始、これらに対する対応を開始することが出来てきた、次年度これらの活動を評価する。
- ④ 地域連携 静岡県がん診療連携協議会内に「小児・AYA世代がん部会」を創設して、本年度は2回会合を行った。AYA世代の長期フォローアップや、財政支援についての具体的支援について、内容、計画について意見交換を行った。妊孕性温存等の支援事業につながった。  
静岡版AYA世代支援ネットワーク構築のためのワークショップでは、施設間連携、妊孕性温存などをテーマに議論を重ねた。

## D. 考察

AYA支援に必要なニーズの把握し、新しい支援の取り組みを行ってきたが、院内チームの存在、他施設との連携、行政との連携などが、支援を継続的に取り組むためには、必要な条件と考えられた。こうした活動が、普及するには、なんらかの診療報酬などへの支援も重要で、AYA世代に追加の負担にならない財源について検討すべきと考えた。

## E: 結論

AYA支援を構築する様々な資源の充実することの重要性と共に、これらの資源を結びつける支援チームの存在は、多職種により治療やケア全体を俯瞰するためにも重要である。その普及、効率的な運用が望まれ、施設や地域の特性を生かした方法について研究が必要と感じられた。

## F. 健康危険情報

## G. 研究発表

1. 論文発表  
該当なし

## 2. 学会発表

該当なし  
(発表誌名巻号・頁・発行年等も記入)

## H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)

1. 特許取得  
該当なし
2. 実用新案登録  
該当なし
3. その他  
出版物  
がん化学療法ケアガイド 第3版  
第三章 pp88-101  
3. AYA世代の対するケア  
①AYA世代の患者に対する意思決定支援  
石田裕二  
②未成年の子どもをもつがん患者に対する支援  
阿部啓子、石田裕二